



宮崎学園短期大学マスコットキャラクター

# 6 後援会だより

June 2011 Vol. 15



春の忍ヶ丘祭

## 後援会会長より



### 御挨拶

宮崎学園短期大学後援会  
会長 前田 澤

東日本大震災に被災された皆さま方に心よりお見舞い申し上げます。

宮崎学園短期大学後援会の皆さまには、日頃より後援会活動に対しましてご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。私は、この度会長にご指名を受け、就任いたしました。どうぞよろしくお願い致します。

短大は、昨年キャリア支援室を設置して、学生のキャリア教育に取り組みましたが、今年度からは、キャリア支援室と学生部を合体させ、学生支援全般を学生支援部で行うこととなりました。その中に、キャリア支援課・就職指導課・学生指導課の3課を設置しました。さらなる学生の職業に対する知識とガイダンス及び就職活動への意欲の向上を目指し、ひとりひとりの「人間力」を育てる事を願ってのことであり、後援会としましては、心強く誠にうれしい限りでございます。

私たち後援会は、子どもたちが安心して勉学に励み、充実した学生生活を送り、そして夢の実現のため、気持ちをひとつにしてこうした取り組みを支援していきたいと思っております。会員の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 学長所感



### この頃、しっかりと見えてきたもの

学長 山下 忍

「年齢を重ねる中でしっかりと見えてくるものがある」、この言葉は、随分と昔、耳にしたものですが、今になって真意がつかめたように思います。

若者は本当にやさしいし、若者の描く夢は本当に美しい。

4月の23日の「春の忍ヶ丘祭」では、若者の群れを相手に綱引きをしましたが、二試合もしながらケガなしに済んだのは、若者のやさしさがそうしてくれたのだと、今、しみじみと思っています。また、五月の初め、1年生の女子学生から、卒業に至るまでの夢を聞かせてもらいました。先生になりたい、ずーっと先で先生になるのではなく、卒業と同時に先生になりたい。声も明るく元気、両の目もキラキラと輝いていました。

今までも、こうした姿には接してきましたが、この年齢になって、若者のやさしさや夢が、真真正面からずしんと迫り、のしかかってくるようになったと思っています。

唐突ですが、宮崎学園短期大学の学生たちは、荒削りだが美しい。

# 学科・専攻科の

## 保育科

夢を追い、夢をかなえることで輝いてほしい。

保育科長 野坂 敬



保育科に入学した学生の多くは「子どもが好き」、「子どもといると自分が素直になれる」と、子どもの限りない成長と、輝かんばかりの笑顔と生命力あふれる活動に魅力を感じ、その仕事の必須の資格取得を目指して保育科に入学してきています。言葉を替えれば、自分自身が子どもとの交流を通して「成長し」、「輝く」ことの素晴らしさを理解したい、あるいはその中心にいて自分自身も輝きたい、そのために保育者になりたいと願って入学してきているのが保育科学生の特徴です。本学開学以来その夢を追い求め、学び、夢かなえて、今でも現場で輝き続けている先輩諸氏に出会うとき、入学時の「子ども」への思いを今も持ち続けて笑顔で子どもに接しておられる先輩の方々の多さに驚くばかりです。まさに、「子ども」の持つ生命力や可能性に触れ、感動する。その連続性が保育者の業務冥利に尽きるものであり、多くの後輩が後を追いつけて保育科を目指して入学してくる原動力となっているのだと思います。私たちの保育科は、このような素晴

らしい先輩たちを持つ伝統ある学科です。私たち教員の熱い思いだけでなく、多くの先輩諸氏の築かれた伝統や思いもが保育科に入学してきた皆さんに大きく注がれ、支えとして大きな存在になっていることを理解してほしいと願っています。

また、このような伝統に、専攻科福祉専攻が誕生し、新たな保育科の「信頼」の伝統を築き始めており、福祉関係機関の各所で高い評価を得ている事も理解してほしいものです。このように、伝統とは次代につなぐとともに新たに作っていくものであることを実感しています。この糸を紡ぐ作業が「信頼」という学生の皆さんが一番忘れてはならない作業です。「その人らしい人生」を年齢に関係なく「輝く」ことを支援する専門職が「保育者」です。幅広く「人」に係る仕事である事を自覚し、自分を大切にすると同じように「他人」も大切にできる皆さんであるために学びを深めてほしいと思います。

## 初等教育科

変化の時代を切り拓く気概

初等教育科長 松野 隆



口蹄疫、鳥インフルエンザ、新燃岳噴火、そして、今回の東日本大震災と、矢継ぎ早に私たちは、数々の試練に向き合っています。悲しさ、むなしさ、人間の非力さ等を感じて落ち込んでいる中、お互いに支え合おうと手を差し伸べられるたくさんの方々がいらっしゃる現実に頭が下がり元気が出ます。やはり、私たちは、人と人の間で生かされているのだということを痛感する毎日です。一刻も早く、もとの元気な笑顔がよみがえりますようお願いいたします。

さて、本年度も2か月が経過いたしました。世の中は、刻一刻と変化を続け、「10年ひと昔」と呼ばれたのも、今では「3年ひと昔」とさえ呼ばれる時代になってきました。よきにつけ、あしきにつけ、時代は、どんどん変化を続け、その勢いに圧倒されそうです。教育界においても例外ではなく、コンピュータを始めとする、各種メディア操作のできることが当然のようになってきました。ただ、操作できることだけに気を

奪われ、情報モラルを置き忘れることのないよう心したいものです。メディア操作力の向上とモラルの向上とが相俟っていることがバランスある人間として必要不可欠といえるのではないのでしょうか。

ところで、「時代の変化を切り拓く気概」とは、「現状が最高であると思い込み、その改善への努力を怠る気持ちを戒める言葉である」と捉えたいと思います。刻々と変化する世の中を直視し、何が問題なのかを自問し、それを改善しようとする気概をもつ姿勢こそ大事にしたいと考えます。本学の皆さん方に願うことは、今、どんなことが問題や話題になっており、それに対して、どのような解決策が考えられようとしているのか、自分だったらどのように考えるかなどを自分に置き換えて考える努力を惜しまない存在であってほしいということです。現状を打破しようとする気概をお互いに大事にしたいものです。

# 学生に望むこと

## 音楽科

### 届けよう！音楽の力！

音楽科長 末平 浩康



23年度は、東北大地震という未曾有のショッキングな大災害被災、復興の中から始まりました。私たちが、あの苦しい悲しい出来事をテレビ等で見、聞きしていく中で、被災された方々の整然とパンや水の配給を待つ姿や、苦しみ、悲しみを抱えながらも他人に対しての思いやりややさしさの姿には、言葉にならないくらいの想いを抱かずには居られませんでした。金銭面での支援やボランティア支援とともに、東北の人々のニュースをずっと涙を流しながら見続けることも、一つの支援の在り方のような気がしているこの頃です。

さて、被災地の人々を勇気づけ、励ますために、多くの音楽家や芸能人が現地を訪れています。まだ、災害に見舞われて間もない時期に、ああして音楽を奏でて、東北の人たちははたして癒されるのだろうかとはじめは思いました。だんだんと時がたつにつれて、やはり音楽の力はすごいものだなあと感じます。被災された人たちが、どんな音楽に癒されたか？静かな落ち着いた音楽かなと

おもいきや、意外と、童謡やアンパンマンなどのアニメソングや演歌などが好まれていたそうです。

ところで、この忍ヶ丘の音楽棟からも、東北の人たちや県内の人たちへ向けて、生き生きとした音楽が今年度も発信され始めました。新1年生は、今年から新設された伝統音楽コースに箏（琴）専攻の学生が早速入学してくれ、フルートやサクソフォーン、電子オルガンやピアノ、声楽など、例年にも増して多彩な音空間が広がっております。

音楽科の学生諸君！東北の人たちのことを思えば、私たちは限りなく幸せです。私は、22年度の卒業生へ次のような言葉を贈りました。「どんなに世界が平和に満ちていたとしても、いつか悲しみは襲ってくる。その時、どう生きるか？さあ！今からだ！心に太陽を！唇に歌を！」

頑張ろう日本！頑張ろう宮崎！頑張ろう学園短大！頑張ろう音楽科！

## 人間文化学科

### 学科生が社会で生き抜く要素と力

人間文化学科長 久保 良一



現代は、グローバル社会、環境調和型社会、ICT社会、少子高齢化社会、サービス経済化社会、知識基盤社会など「ヒト、モノ、カネ、情報」の経営資源を駆使した社会が到来し、その中で私達は当たり前のようにしかも無意識的に生活しています。

人間文化学科は、このような社会が学べる唯一の学科として、「あるべき学科の姿」を追い求め、社会で「有能な人材」を育むことを目指しています。そこには、「人」、「文化」に焦点を当てながら各コース(文化ビジネス(ビジネス+人作り)、国語国文(リテラシー・教養+人作り)、医療事務・医療秘書(医療事務・秘書+人作り))のそれぞれの特色を生かす努力をしています。これらの特色を作り出すことが、ひいては、①人間力 ②教養力 ③専門力の「力」を生み出すこととなります。そしてこの3つの力を育成するためには、本学科の教育課程に組み込まれた科目をしっかりと学び、力と実際の・体験的な資質が備わった人材になる

努力を惜しみなく実践することです。そのためには、日頃から人間性や基本的な生活習慣(思いやり、公共心、倫理観、基本的なマナー、自分の身の周りのことをしっかりやる等)を身につけるために「意識」の高揚を図ることです。これらは進路実現に向けて努力している学科生の必要な要素と力の育成に必ず繋がると確信しています。そしてこれらの基盤の上に、①基礎学力(読み・書き、計算、基本ITスキル等)、②専門知識力(仕事に必要な知識や資格等)そして③社会人基礎力(コミュニケーション、実行力、積極性等)を磨くことを切に願っています。

本学科生は、非常に明るく笑顔があり、学習意欲が高い。そして何事にも「誠実」であることが本学科の強みでもあります。このような学科生と共に社会で貢献できる人材の育成に全力投球しています。今後とも、さらなるご協力、ご支援を賜りますようお願い致します。

## 「忍ヶ丘学びのサポート」が 始まりました。



平成23年4月から、全教員が学科の枠を超えた少人数の学生を担当し、学生一人一人の学習・生活支援を行う「忍ヶ丘学びのサポート」という1年生全学生を対象とした少人数演習の授業が始まりました。

この授業では、建学の精神「礼節と勤労」の下、7～8人によるグループ・ワークを通して、「全学人材育成目標」の達成を目指しています。具体的には、教員が一人一人の学生と今まで以上の関わりをもって学習・生活支援を行い、学生にふさわしい基本的生活習慣の確立、学習姿勢・習慣・スキルの獲得、基礎学力・コミュニケーションスキルの向上、礼節と勤労の涵養など礼節・人間尊重の精神、勤労・問題解決力、リテラシー、協働力、実践力及び自己肯定感の育成を目指していきます。

4月と5月の授業では、今年1年の目標設定、建学の精神「礼節と勤労」、講義の受け方等について、7～8人のグループで学び合いました。皆で意見を出し合い、一緒に考えていく作業を通して、色々なアイデアが出され、お互いが刺激しあう楽しい授業になっています。1年後の学生の成長がとても楽しみです。(山下恵子)



## 就職活動に向けて

一昨年度から、全国的に求人減と厳選志向が続いており、厚生労働省及び文部科学省発表で、平成23年3月卒業の就職率は、大学91.1%、短期大学84.1%でした。そのような就職氷河期のなか、宮崎学園短期大学は就職率97.4%を達成することができました。この高い就職率を支える要因は、資格職の強み、伝統的な信頼による求人、個別の細やかな就職指導、そして学生の積極的な就職活動によるものです。

厳しい就職戦線を打破するには各自の積極的な就職活動が必要です。就職活動の第一歩は情報の収集です。いかに情報を集め、効率よく活用できるかが成功するポイントです。企業の場合はネットによる登録エントリー、企業説明会への参加などです。保育園等の場合は、実習園等での自主実習・行事参加や自宅近くの保育園等に履歴書を持参し



ての就職のお願いなどが重要な就職活動です。

就職は自分の事ですから、「就職する」という気持ちをしっかり持ち実践していただきたいと思います。

(佐土原就職指導課長)

## 2年生保護者会のご報告と 1年生保護者会のご案内

5月21日、2年生保護者会が開かれ、107名と沢山の参加者がありました。全体会では学長挨拶に続いて、就職指導課長、学生指導課長の話があり、その後各学科会場に分かれ、学科の説明がありました。そしてその後、学級主任との個別面談に移りました。社会に送り出す前の最終段階、学校からの願いが語られ、面談の中ではお子さまの現状や今後についての理解が深められたようです。

10月15日(土)は1年生保護者会が開かれます。是非ふるってご参加ください。

(宗和学生支援部長)



## 平成23年度 オープンキャンパス 第1回 7/10(日)・第2回 8/7(日)

[受付] 9:30～ [開催] 10:00～15:00 [内容] コンサート、ミニ講座、展示、レッスンの他、入試相談コーナーも開設。また無料送迎バス・昼食あり

本年度のオープンキャンパスの日程が上記のように決まりました。本学を身近に感じ、本学の教育方針や授業内容を正しく理解していただくため、学内を開放し多彩なプログラムを準備しました。高校生をはじめ保護者の方や先生方のご来学をお待ちしています。(春は平成24年3月11日に実施)

詳しくはホームページをご覧ください。 アドレス <http://www.mwjc.ac.jp>

(入試広報部)